

年間第 30 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 10 月 23 日 (日)

《愛は『意志』 ～繰り返し思い続けましょう～》

今日の福音（マタイ 22・34-40）で、イエス様は最も大事な掟について話されました。第一の掟は「全てを尽くして神様を愛しなさい。」そして、同じように大事な第二の掟として「隣人を自分のように愛しなさい。」とおっしゃいました。

イエス様は、第一の掟、第二の掟という表現をなさいましたが、実際にはこの二つは同じ内容の言葉です。本当に正しく神様を愛する人ならば、当然、隣人のことも愛そうとすでしょう。神様をきちんと愛することのできない人は、人も愛せません。逆に、人への愛があふれているのに神様を愛さない人はいません。人に対する愛の心を持っていない人は、神様に対していつも否定的です。

私たちは、神様に対してどのような態度をとっているか、人間に対してどのような態度をとっているか考えなくてはならないと思います。

愛という言葉をご存知ですね。では、最も価値がある愛とはどのようなものでしょうか。

今までの私の結論では、最も価値のある愛は『意志』です。何かをしようとする心です。『意志』というのは、自分との闘いです。相手の反応は気にせず、いろいろな感情の変化があっても、自分が愛そうと思ったものを最後まで愛し抜こうとする自分との闘いです。では、そのような意志を成功させるためにはどうしたらよいのでしょうか。ただ一つの方法しかありません。それは、反復的な練習です。「この人を愛さなければいけない。愛さなければいけない。」と繰り返し思い続ければ、自分でも知らないうちに、その人を愛している気持ちになると思います。

全く知らない二人の男女が、ある日突然目があい、愛に陥ったとしましょう。それも美しい愛です。しかし、その愛は変わります。長くは続きません。感情から始まったものは、感情と共に消えてしまいます。たとえば、相手の声の素晴らしさに心を奪われて、その人と結婚したとしましょう。年をとればその声も枯れてしまいます。もっと素晴らしい声の人がどんどん現れて来ます。また、恰好よい姿に惹かれて結婚したとしましょう。年をとれば、もっと格好よい人々が目に入って来ます。ですから、私たちが求めなければならない『愛』というのは、自分との闘いです。

もし、嫌いな人がいて、「その人が大嫌い」と思ってしまえば、永久に嫌いになってしまいます。しかし、「この人は素晴らしい。素晴らしい。」と思えば、自分でも気付かないうちにその人は素晴らしい人になります。

これが、イエス様が私たちにしてほしいと願う愛の内容ではないでしょうか。練習が必要です。そしてその練習は、意志がなければできません。それを自分のものにしようとする心がなければ、絶対に何も手に入れられません。

今日の福音の「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉は、特定の人になれば可能かもしれま

せん。たとえば自分の息子、親しい友、そのような人ならば、自分のように愛することができるかもしれません。しかし、この世の全ての人に対してそのような心を持つことは無理でしょう。それは、イエス様にも分かっています。しかしそれでも、イエス様はこのように私たちに要求したのです。だから希望を持ちましょう。もし私たちに練習ができれば、そして愛そうとする心があれば、私たちは愛することができるのです。

今集まっている人々の中にもお互いに仲良くない誰かがいるかもしれません。その人のために今日のミサを捧げましょう。私はこの人を愛さなければいけない、という気持ちで相手を見ることができれば、今まで感じられなかった大きい喜びを体験できると私は信じます。

ありがとうございました。